

古墳時代の時代区分と土器

柳沼賢治

はじめに

列島でさかんに古墳が造られた時代を「古墳時代」といい、おおむね3世紀中頃から6世紀一杯を言う。

この時代を通して使われた素焼きの日常什器を「土師器」と呼んでいる。土師器は、弥生時代の流れを汲んだ焼き物で、奈良・平安時代まで生産され、中・近世のかわらけに代わるまで使われた素焼きの土器である。また、中期に韓半島からの渡来人によって伝えられた須恵器は、灰色をした硬質の焼き物で、当初は主として大阪で生産された。

以下では、秋田県で資料が増加しつつあるこの時代の土器について、周辺地域と比較することとで、より理解を深めることにしたい。

1、東北南部太平洋側の古墳時代土器編年

(1) 前期の土器（3世紀後半～4世紀後半）

- ①ハケ甕と小型器種に代表される組成。
- ②関東地方経由で届いた東海系土器の存在。
- ③甕の外面は主としてハケ調整する。ただし、ナデ調整が多い地域もある。

(2) 中期の土器（TG232～TK47：4世紀末～5世紀一杯）

- ①小型器種・ハケ甕が消失し、基本的にナデ甕が主体となる。
- ②前期の要素を払拭するも、有段・複合口縁壺、甕、有孔鉢などの残存形態もある。
- ③ON46頃に坏形態が定型化し、平底主体の時期から丸底の盛行に移行する。
- ④高坏は形を変えながら存続し、前半で数が増しTK208に短脚化・脚上半に中実傾向を示しはじめ、量は激減。
- ⑤竈はTK216で出現（福島：郡山市清水内遺跡・宮城県南小泉遺跡）、ON46～TK208で多くの集落に普及する。
- ⑥TK73やTK216に小型壺が盛行、量的減少と形態変化を繰り返し、TK208の小壺につながる。
- ⑦中期前半のうちに韓式系土器の波及があり、これに似せた模倣土器の出土がある。

(3) 後期の土器（MT15～TK43：6世紀初頭～末）

- ①内斜口縁坏は、中期中葉～後半に坏形態の定型化が進み、口縁幅が増す。
- ②坏内面の黒色処理は、TK47ごろに出現し、MT15～TK10に急速に普及する。
- ③甕の長同化が進行する。
- ④TK10ごろに坏の有段化がはじまり、MT85ごろまでに有段坏の定型化に至る。

⑤甕の長胴化は進み、外面は MT85～TK43 にかけてハケ甕が成立。ここに東北南部様式の「栗罎式」が成立する。

2、各地の概要（特に東北南部との比較）

（1）前期

- ①古墳時代に移行した各地では、会津・山形で北陸系の土器の出土が顕著。
- ②山形では、当初、遺跡ごとに出土する土器が北陸系と関東系に分かれる。やがて、北陸系が衰退し、東北南部様式の「塩釜式」に収斂する（阿部 2019）。

（2）中期

- ①前期に北陸の影響が強かった会津や山形では、この時期になってもハケ甕が目立つ。ちなみに、東北南部でも北陸に近い会津坂下町中平遺跡では、ハケ甕が 41%（22/53）である。
- ②竈の出現は、山形で TK47（三軒屋物見台遺跡）、新潟では「中期に普及している」と言い難い（滝沢 2019）。岩手県奥州市中半入遺跡では、TK208～TK47 にかけた集落では、部分的な調査ではあるが竈が確認されている。また、青森県八戸市の田向冷水遺跡では、中期後半の竪穴住居跡 8 軒すべてに竈が付設されている。
- ③中期後半に高坏が激減する減少は、中半入遺跡や田向冷水遺跡でも認められる。
- ④会津の中平遺跡では、内斜口縁坏と口縁内彎坏 2 者のうち、圧倒的に後者が多く、太平洋側とは対照的である。

（3）後期

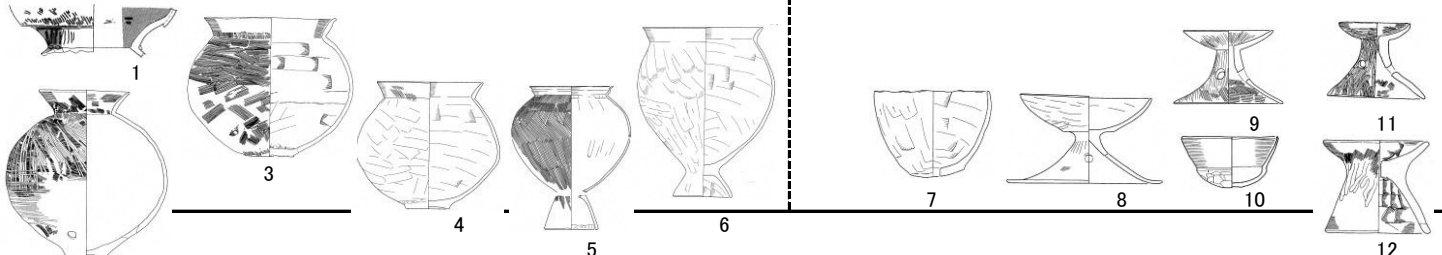
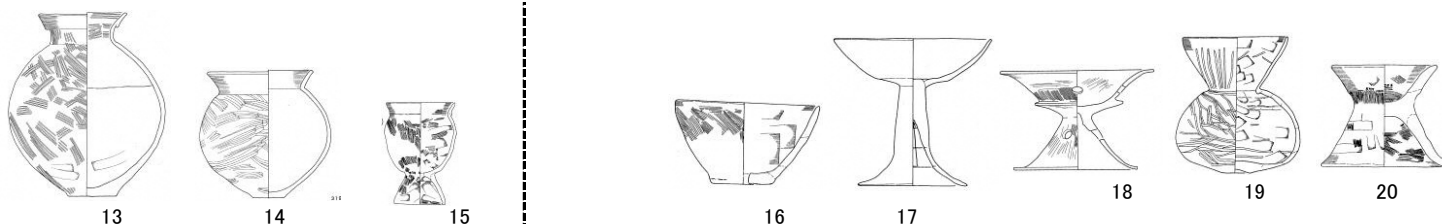
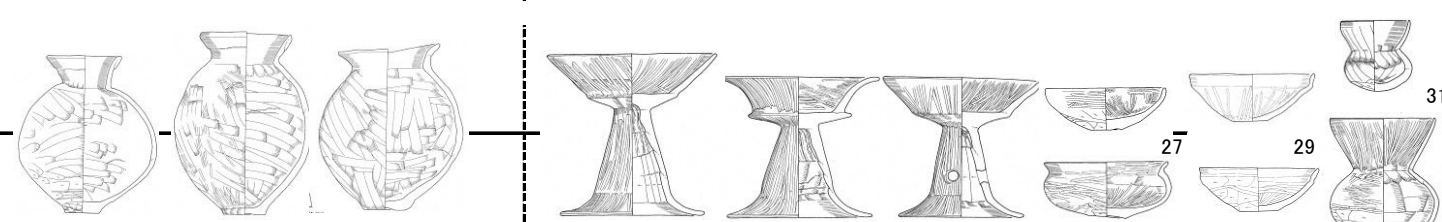
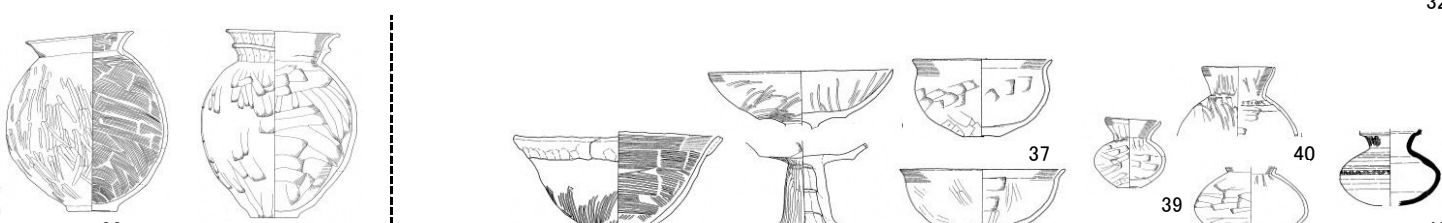
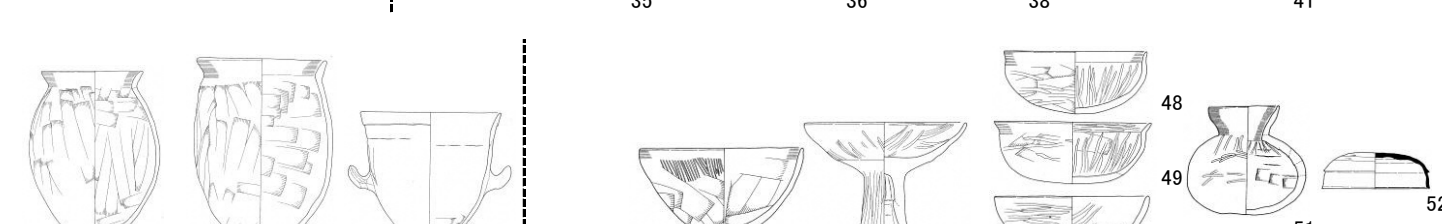
- ①中期に続き、新潟・山形では、太平洋側と異なり、外面にハケ調整を施す甕が目立つものの、内斜口縁系譜の黒色土器が卓越する点では、太平洋側と類似する。
- ②坏内面の黒色処理は、信濃が発祥と考えているが（柳沼 2007）、北に接する新潟では、出現は中期後葉にあるが後期になってから一般化する（小野本 2019）。山形でも同様、後期になって一般化する。坏内面の黒色処理は内外面のミガキとセットで、少なくとも新潟～東北南部に普及する。

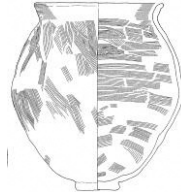
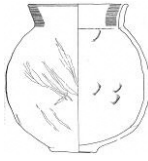
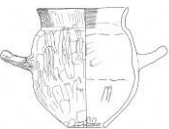

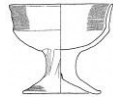

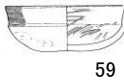

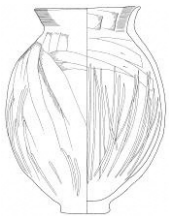
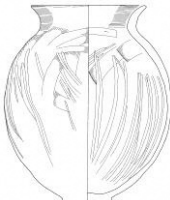
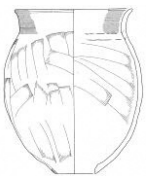
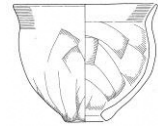

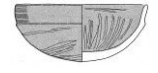


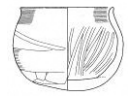

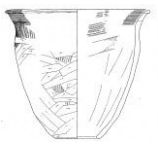

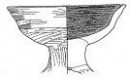


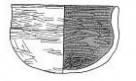


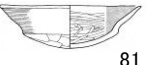

おわりに

引用文献

- 阿部明彦 2019 「出羽南半における古墳時代のはじまり—山形盆地における古墳時代是期の土師器編年—」
『山形考古』第 48 号 29-46 頁
- 小野本敦 2019 「中期」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会 373 頁
- 滝沢規朗 2019 「炉・竈の変遷」『新潟県の考古学Ⅲ』新潟県考古学会 391 頁
- 柳沼賢治 2007 「東北地方南部における黒色土器の系譜」『列島の考古学Ⅱ—渡辺誠先生古稀記念論文集—』
同刊行会 167-178 頁

第1・2図 福島県における古墳時代土器編年

| 実年代 | 実年代資料 | 須恵器 | 特徴 | 土器の変遷 | |
|-----|--|-------|----------------------------|--|--|
| | | | | (壺・甕等:1/12 その他:1/8) | |
| 258 | (年輪年代) 二口かみあれた | | |  | |
| 300 | | | ハケ甕 小型器種 |  | |
| 350 | | | |  | |
| 389 | (年輪年代) 宇治市街遺跡SD302 (TG232) | TG232 | ハケ甕の消失 小型器種消失 韓式土器出現 |  | |
| 410 | (年輪年代) 新堂遺跡 (TG232~TK73) | TK73 | 小型壺卓越 高坏多 |  | |
| 412 | (年輪年代) 平城宮第2次 SD6030(TK73~TK216) | TK216 | 甕出現 | | |
| 450 | | ON46 | 壺の消失 高坏減少 平底坏主体 | | |
| | | TK208 | 以下丸底坏主体 短口縁小壺 甕の長胴化 | | |

| 実年代 | 実年代資料 | 須恵器 | 特徴 | 土器の変遷 | | (壺・甕等:1/12 その他:1/8) | | | | | | |
|-----|--------------------------|------|----------------------|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 471 | 埼玉稲荷山の須恵器 (TK23~TK47) | TK23 | 須恵器模倣坏出現 中実脚高坏に変容 |  |  |  |  |  |  |  |  | 60 |
| | | TK47 | |  |  |  |  |  |  |  |  |  |
| 500 | | | | | | | | | | | | |
| 520 | (考古地磁気) 新池18号窯(MT15) | MT15 | 内黒坏普及 |  |  |  |  |  |  |  | | |
| 550 | FP降下(TK10~MT85) | TK10 | | | | | | | | | | |
| 570 | (考古地磁気) TK43号窯 | MT85 | ハケ壺・有段坏 |  |  |  |  | | | | | |
| 600 | | TK43 | | | | | | | | | | |

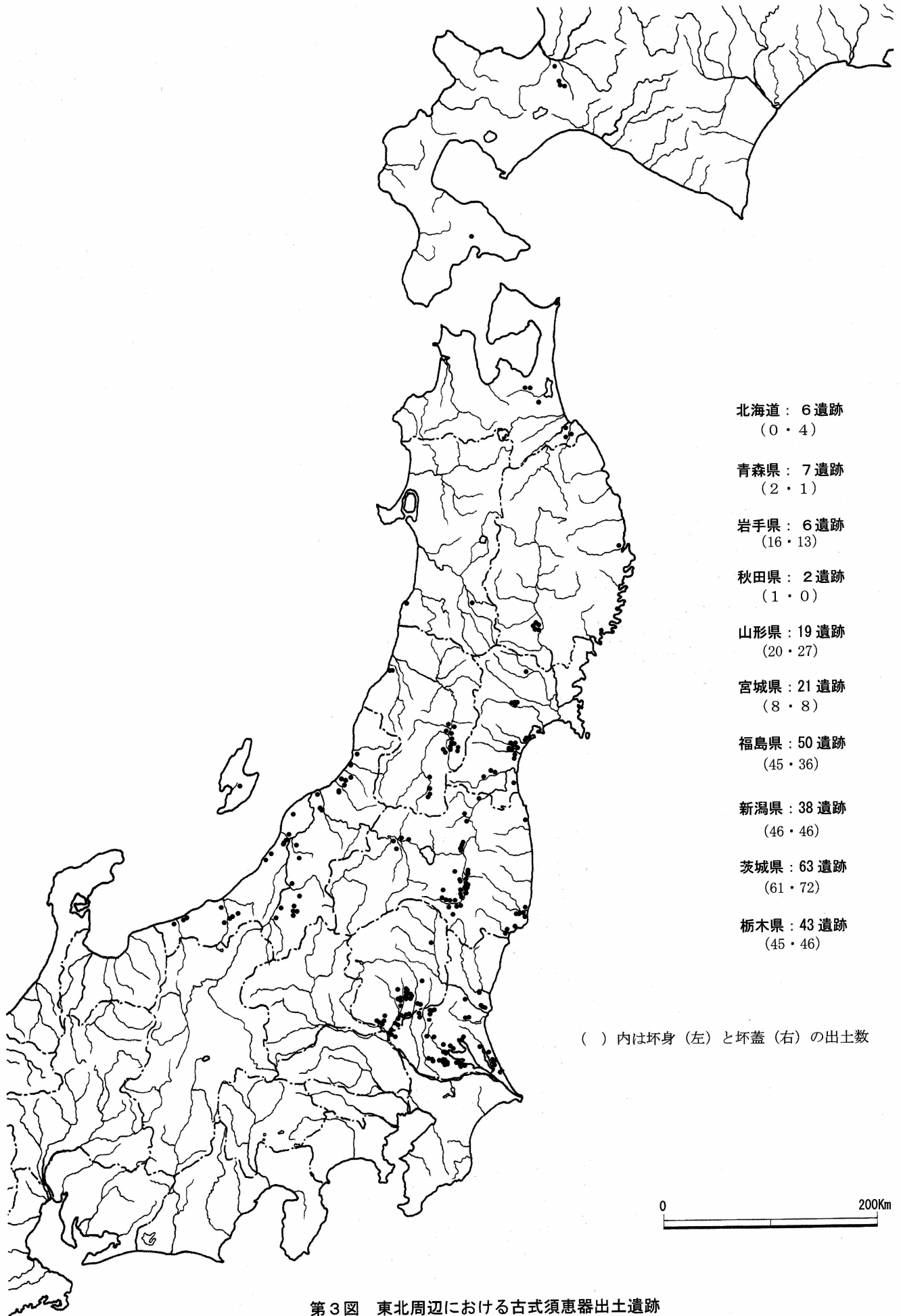
- 1.山中日照田A66住
- 2.同33住
- 3.同37住
- 4.高木131住
- 5・9.同145住
- 6.同143住
- 7.同148住

- 8.同123住
- 10.山中日照田D-11住
- 11.同A65住
- 12.同50住 13.同C21住
- 14.同C21住
- 15.同A38住
- 16.同A65住

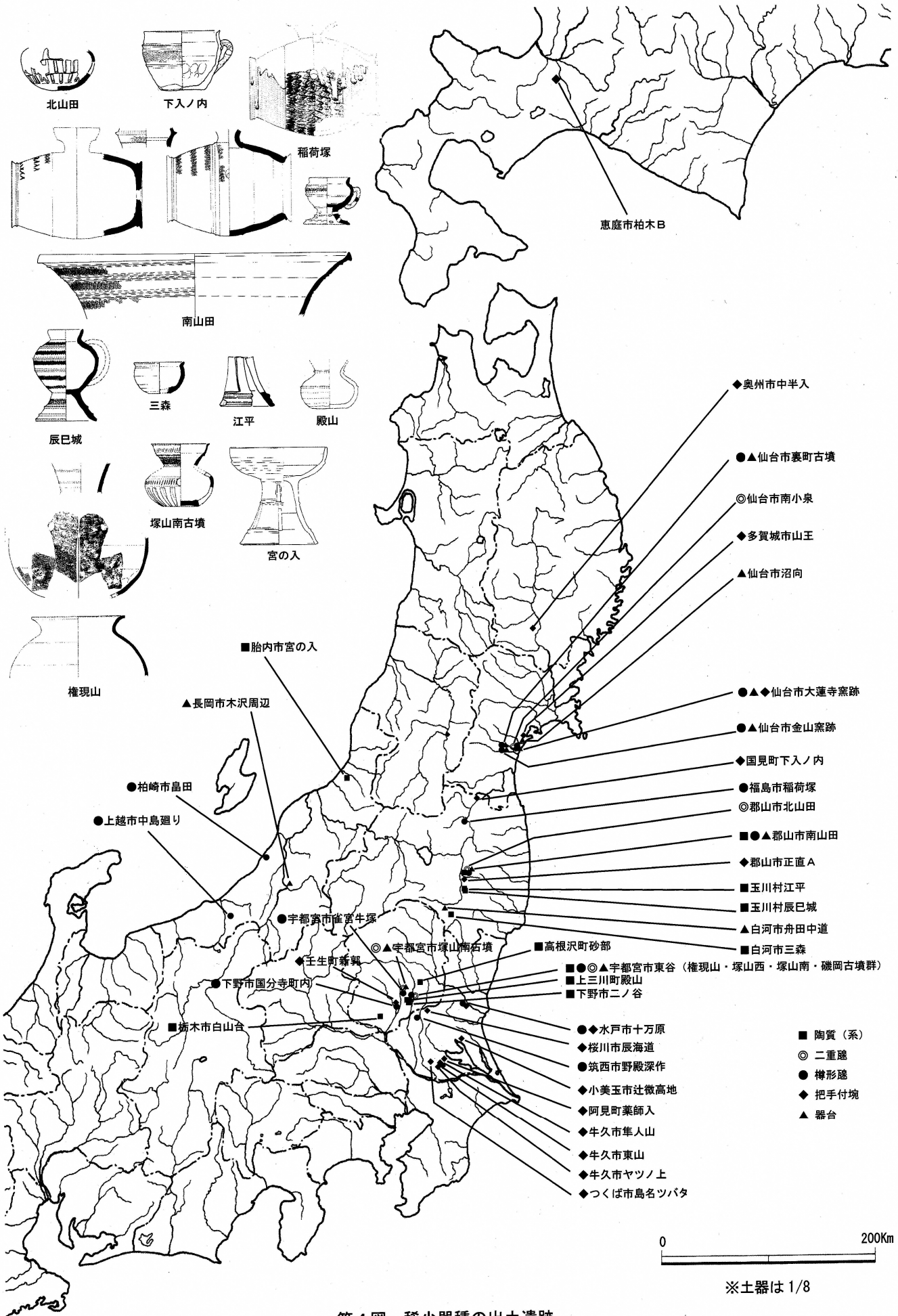
- 17.宮田A1号周溝
- 18.高木90住
- 19.山中日照田A16住
- 20.同A1住
- 21~28・31・32.清水内5区11住
- 29・30.大根畑27住
- 33~41.永作11住

- 42.永作工房跡
- 43・44,46~50.南山田6住
- 45.同南山田15住
- 51・52.同4住
- 53・54・57・59~61.永作3住
- 56・58.永作5住
- 62~71.南山田13住

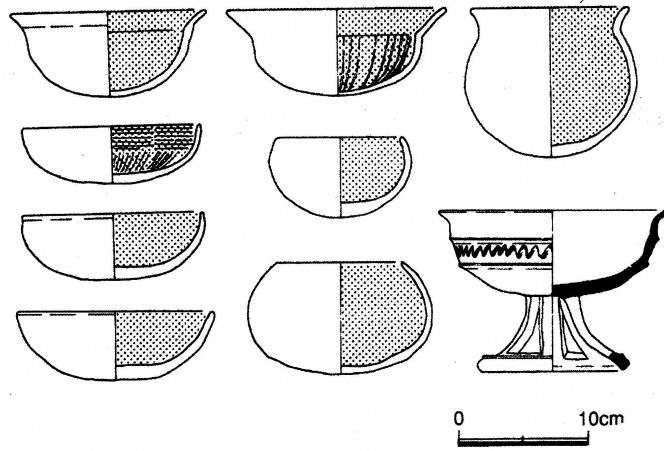
- 72.丸山12住
- 73・74.丸山8住
- 75.同14住
- 76・77.同4住
- 78.同19住
- 79~82.山中日照田C15住



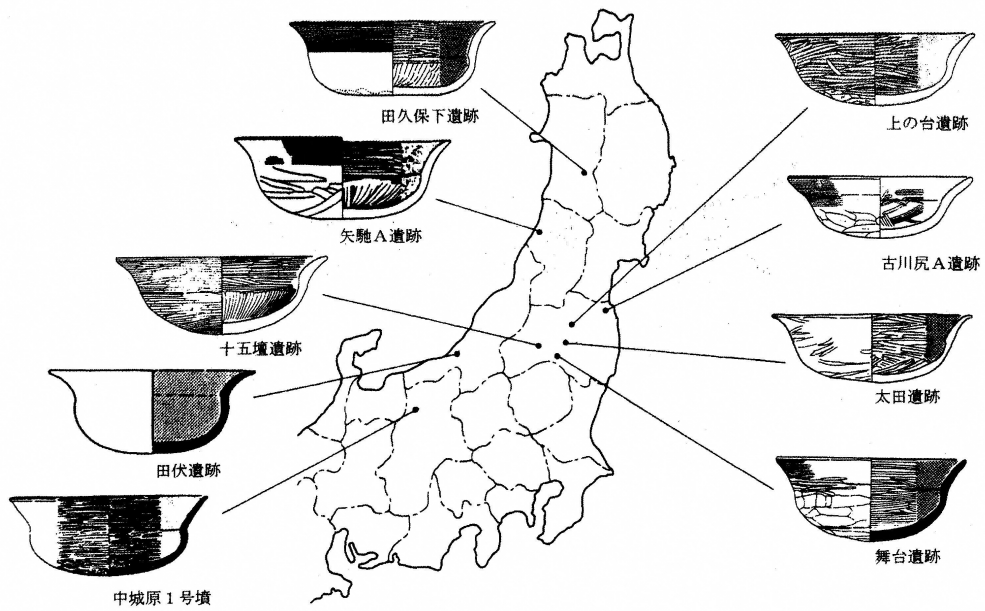
第3図 東北周辺における古式須恵器出土遺跡



第4図 稀少器種の出土遺跡



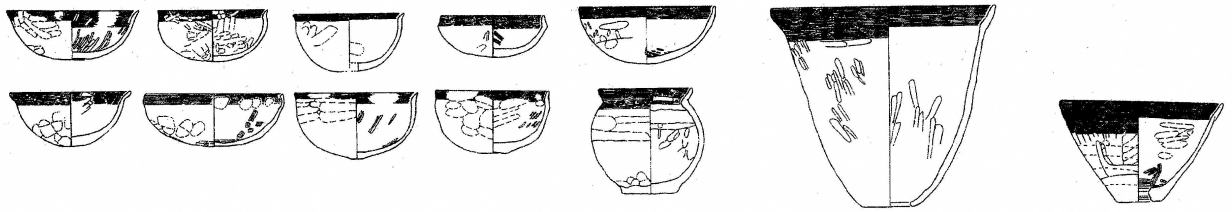
第5図 千曲市屋代遺跡群117号住居跡出土土器 (報文より)



第6図 内黒普及期の土器分布 (柳沼 2007)



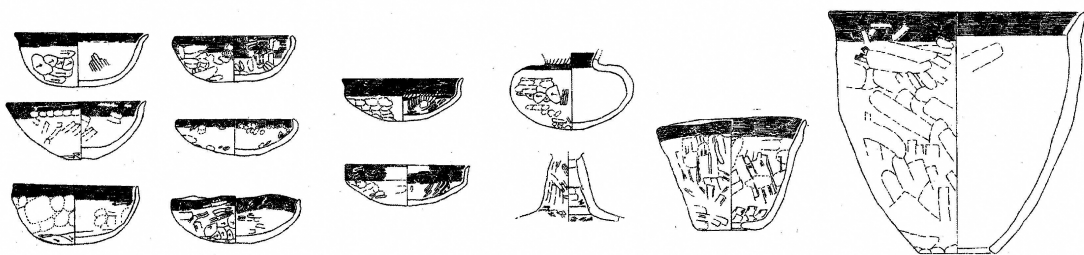
ST03



ST01



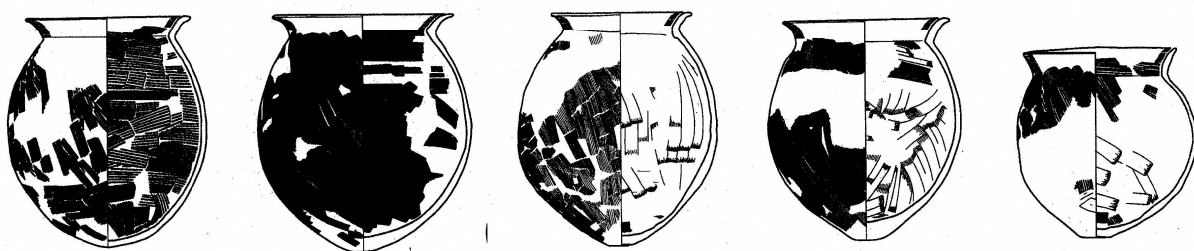
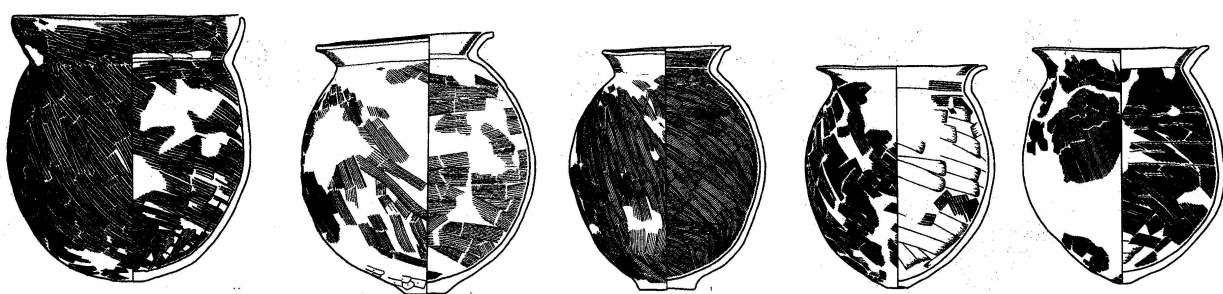
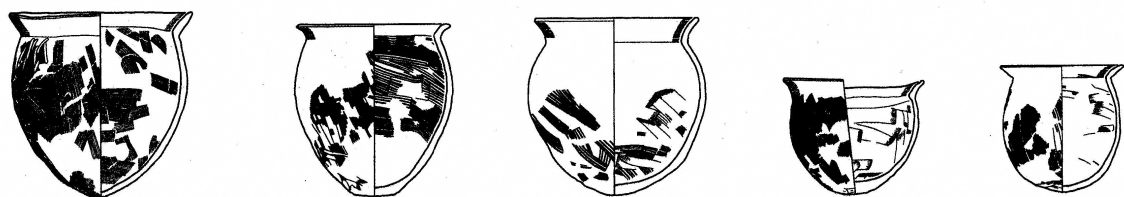
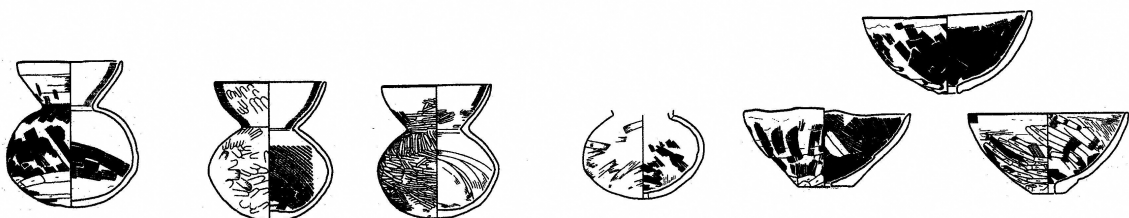
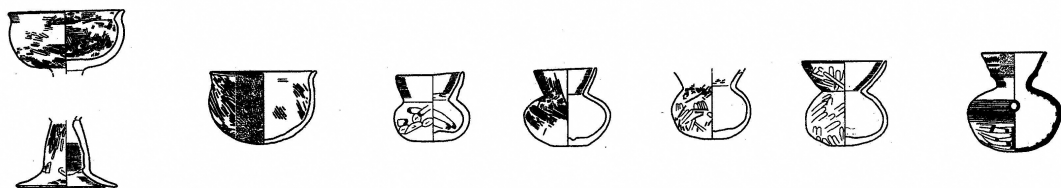
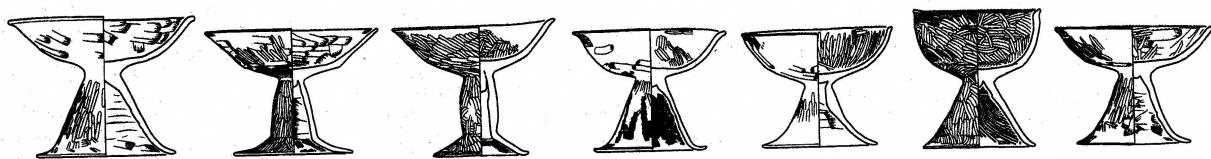
ST02



ST118

0 20 cm
(1:9)

第7図 山形市下柳遺跡の中期土器 (報文より)



すべて遺物包含層出土

0 20 cm (1:9)

第8図 鶴岡市矢馳A遺跡出土土師器 (報文より)